

2022 年度 学修行動調査報告（抜粋）

情報公開では、設問「1-2. 通学時間」「4-1 学生生活」「4-2. 大学教育への期待」を割愛しています。

びわこリハビリテーション専門職大学では、開学 2 年目の 2021 年度より、学生の学修行動に関するアンケート調査を実施しています。（実施時期は、後期学期の 11 月～12 月期）本調査は、学修に係る行動時間、学修取組意識、学習行動・満足度、学生生活での取り組み、汎用的知識・技能、意欲、に分けて学生の行動や意識を調べており、これらの結果から本学の学生の行動特性や問題点などを探り、学内での研修をはじめ、今後の教育活動や学生支援のための参考にすることを目的としています。

本報告は、2021 年度調査（対象者数 59 名、有効解答率 35.6%）と 2022 年度調査（対象者数 174 名、有効解答率 42.5%）結果について、集計結果と分析の概要を記載したものです。本校の現状を最も反映しているのは 2022 年度調査結果です。1 年生・2 年生しか在籍していなかった 2021 年度結果も紹介しています。2022 年度調査結果については、学年別の結果も示し断面的に学年間比較をおこなっています。学年進行に伴う学生の変化については、2021 年度調査時の 1 年生と 2022 年度の 2 年生の結果を、また、2021 年度調査時の 2 年生と 2022 年度の 3 年生の結果を比較検討しました。

（本調査の限界） 本調査は、学生の回答を任意としているため回収率が 50%に達しない点や、もともと学生数が少ないため厳密な統計分析が難しいこと、また、まだ 2 回の調査であることから経年的な比較も難しいという限界があることをご理解ください。

なお、本調査および報告書において、「学修」と「学習」の表記が混在していますが、「学修」とは、ある授業科目や一定期間の教育課程の修得を、「学習」とは、「学修」の中での具体的な学びのありかたを主に含意しています。

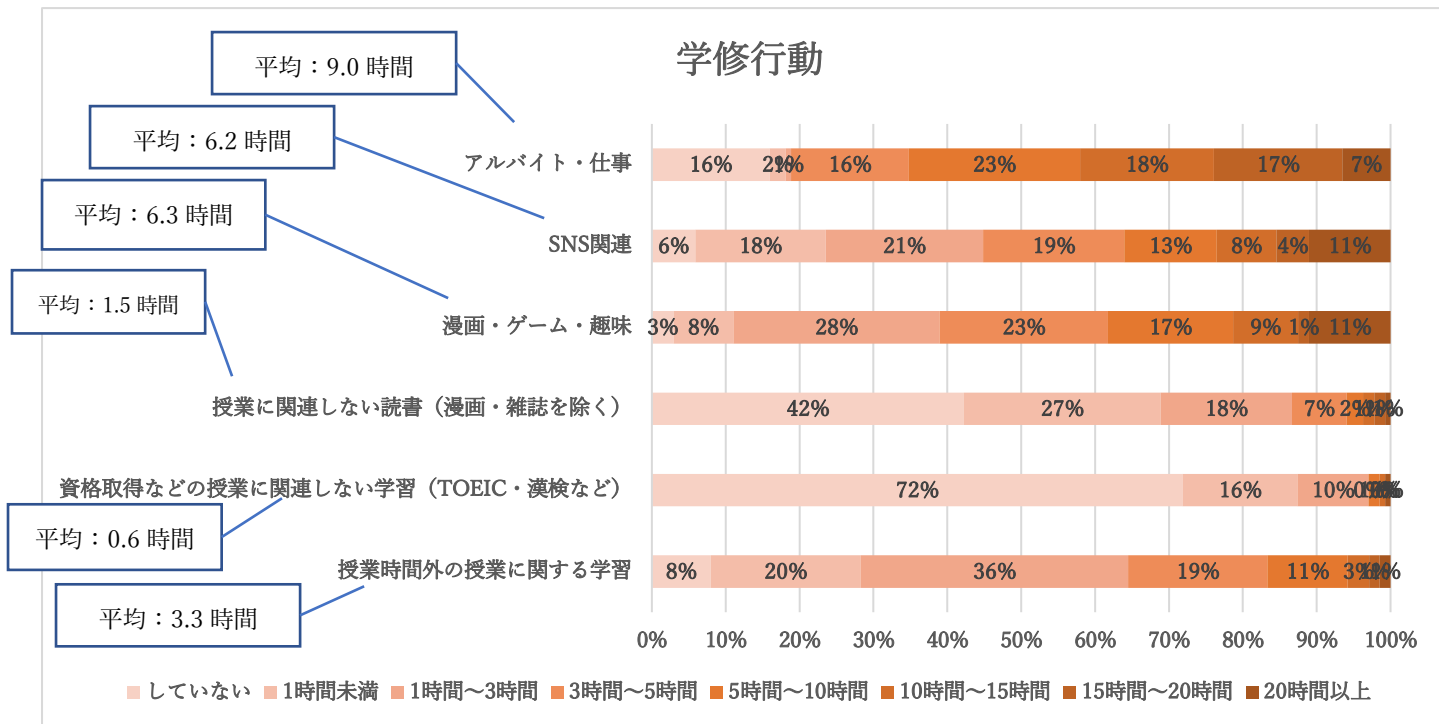
1-1.学修行動

在学生が 1 週間当たり、学習やそれ以外の活動にどの程度の時間を費やしているかを調べたものです。本学では、他大学に比べ必修科目が多く、学生間での履修科目数は大きく変わらないため、学習に関しては「授業時間外の授業に関する学習」時間、「資格取得などの授業に関連しない学習」時間、「授業に関連しない読書」時間の 3 つに分けて訊いています。学習以外の行動として、「アルバイト・仕事」「SNS 関連」「漫画・ゲーム・趣味」のそれぞれにかかる時間を訊いています。また、1-2. で大学までの通学時間を訊いています。

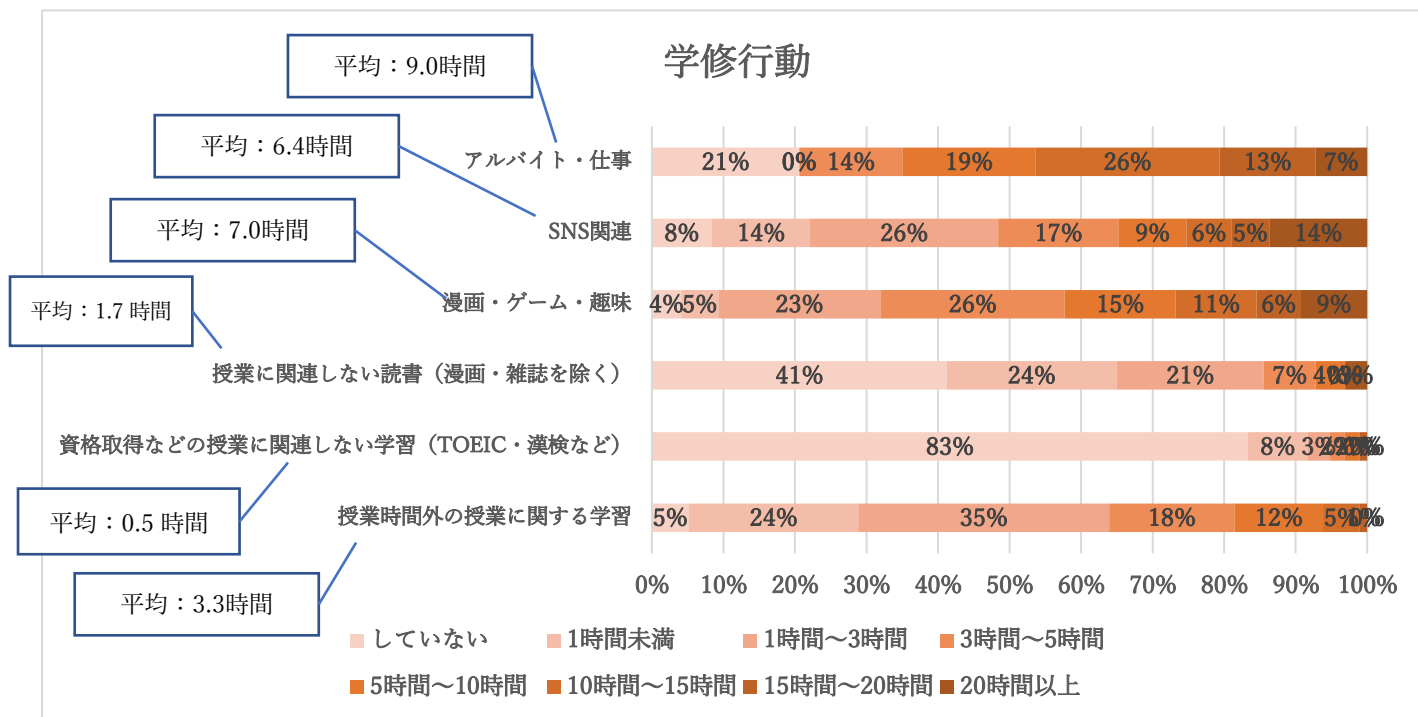
2021 年度～2022 年度の全体の集計、2022 年度の学年別集計と学科別集計は以下のとおりです。主な特徴として、授業時間外の授業に関する学習時間は、断面的に見て学年が上になるにつれ減少しています。入学年度が異なると、同じ 1 年でも学習時間構成が異なりましたが、1 年生から 2 年生へ、2 年生から 3 年生へと追跡に分析しても、学習時間はむしろ減少傾向を示していることが課題と言えそうです。それと因果関係を有するかどうかはわかりませんが、SNS 関連、漫画・ゲーム・趣味の時間が増加しています。授業時間外の授業に関する学習時間については、1、2 年生で約 80%が週 5 時間以内となっており、SNS 関連、漫画・ゲーム・趣味、またアルバイトに費やす時間と比較すると少ない実態でした。

なお、通学時間については、本学では 1 時間以内の通学時間とそれを超える通学時間の割合はほぼ 1 対 1 になっています。

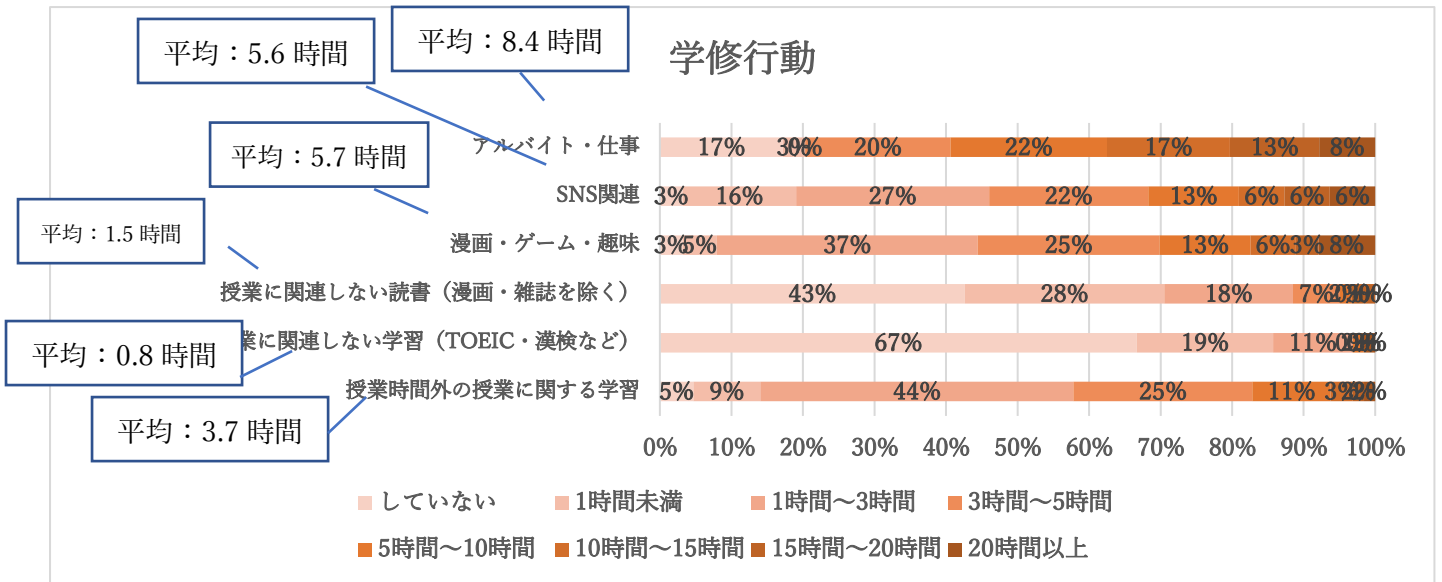
【2022 年度全体】（回答数…140）



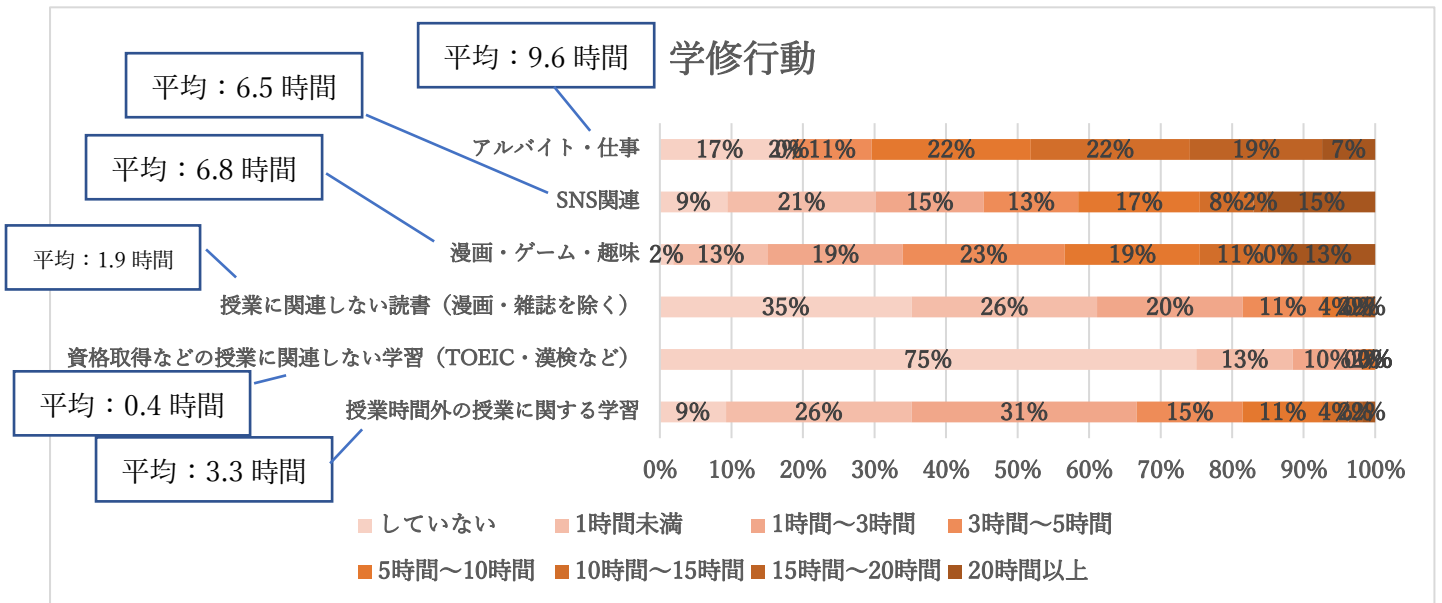
【2021 年度全体】（回答数…97）



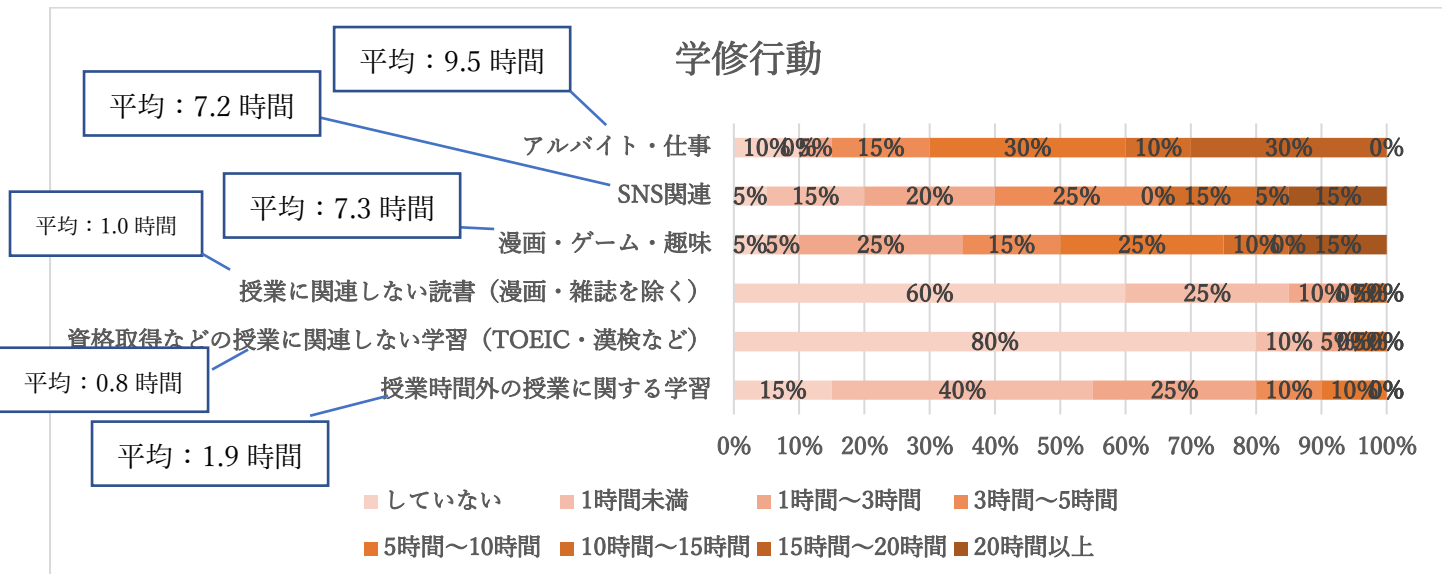
【2022 年度 1 年生】（回答者数…66）



【2022 年度 2 年生】（回答者数…54）

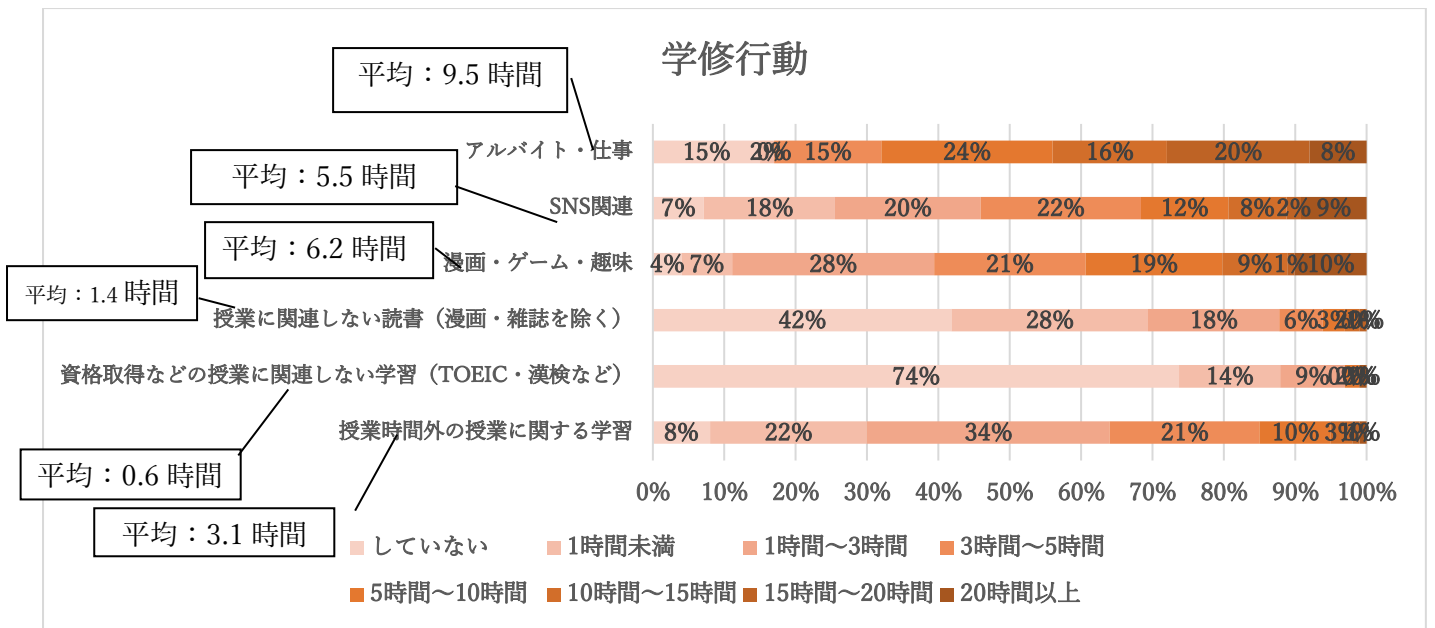


【2022 年度 3 年生】（回答者数…20）

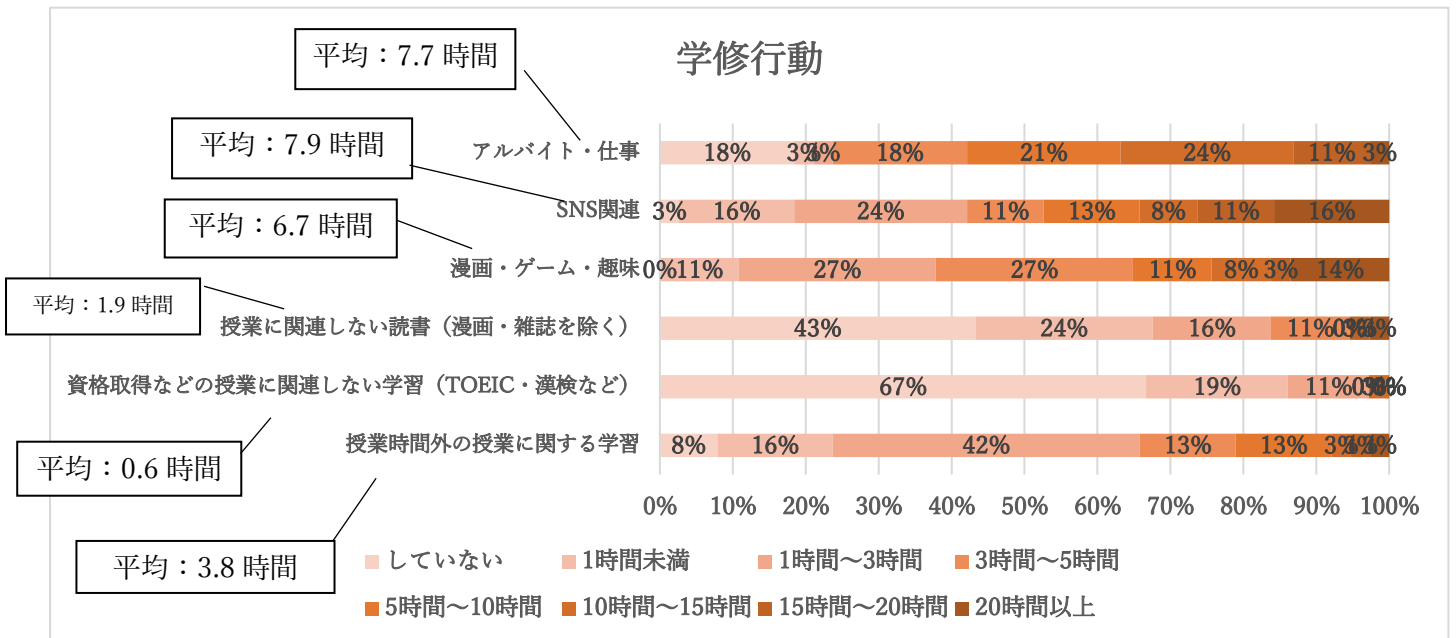


〈備考〉 2 期生の回答数が昨年の 76 名から 54 名に大きく減少している。

【2022年度 PT】(回答数…102)



【2022年度 OT】(回答数…38)



○ 入学年度による違い、および、学年進行による違いを検討 (下表)

同じ1年生であっても、入学年度により自宅での学習時間の分布には異なる傾向がありました。1年生から2年生へ、2年生から3年生に学年が進んでも学習時間の顕著な増加が生じていない可能性があります。

【調査年度別及び学年進行に伴う「授業時間外の授業に関する学修」時間分布の変化】

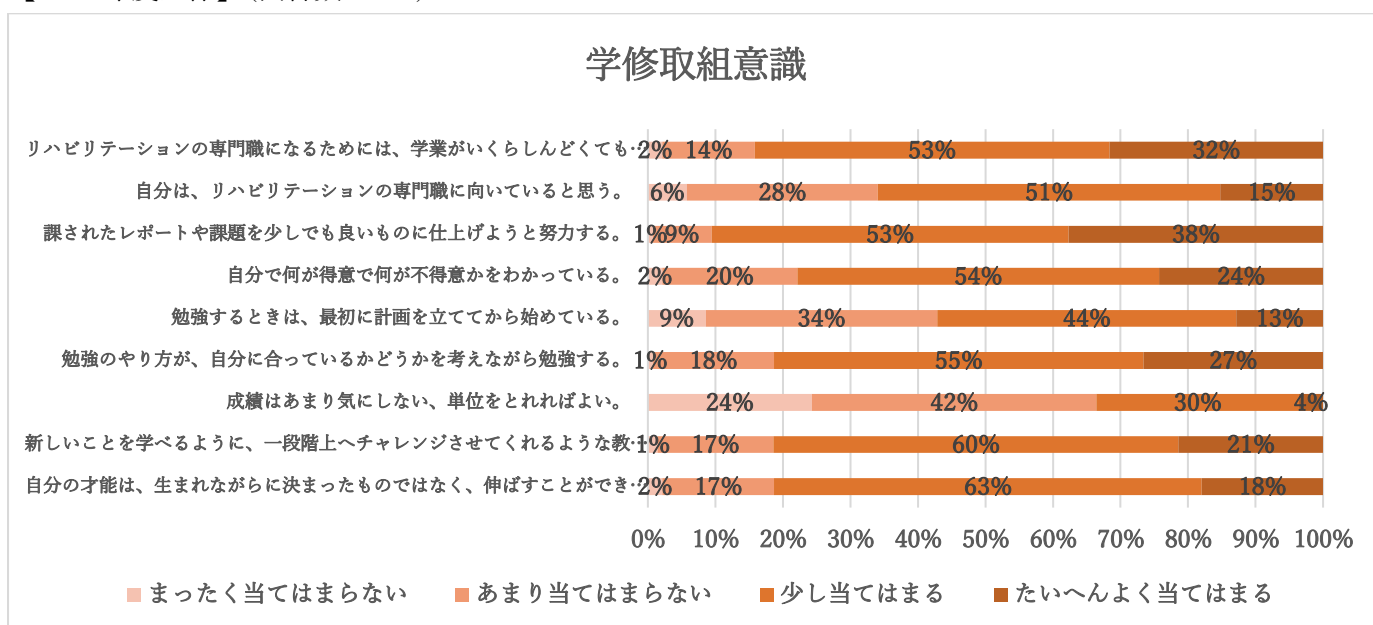
1年生	66人		76人		1年生→2年生	76人		54人		2年生→3年生	21人		20人	
	2022年度	2021年度	2021年度1年生	2022年度2年生		2021年度2年生	2022年度3年生							
していない	5%	5%	5%	9%	5%	15%								
1時間未満	9%	28%	28%	26%	10%	40%								
1時間～3時間	44%	34%	34%	31%	38%	25%								
3時間～5時間	25%	17%	17%	15%	19%	10%								
5時間～10時間	11%	9%	9%	11%	24%	10%								
10時間～15時間	3%	5%	5%	4%	5%	0%								
15時間～20時間	2%	1%	1%	2%	0%	0%								
20時間以上	2%	0%	0%	2%	0%	0%								

2.学修取組意識

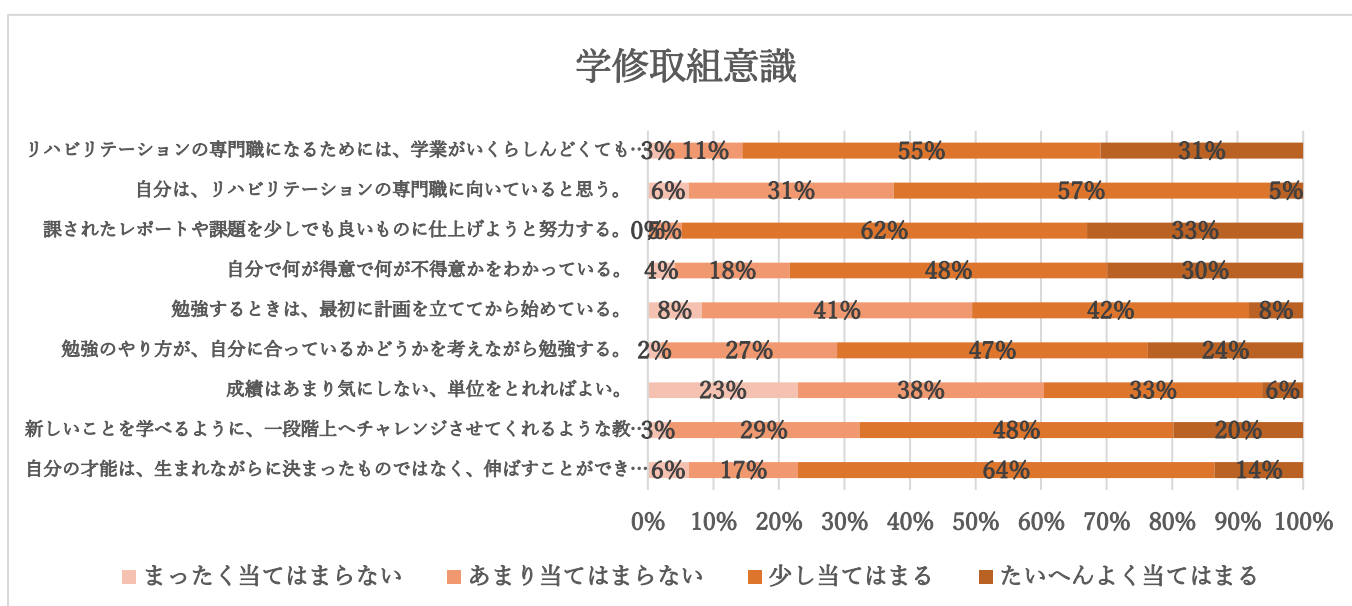
学生の学修取組意識を見るために9項目の質問に答えてもらっています。これらの質問では、①学生がより高い課題に挑戦しようという成長的マインドセットを持っているか、②自分の学力や課題を客観的にとらえ(メタ認知)、主体的に学習しようとしているか、を見ようとしています。大学在学中に、これらの意識が高められるかが重要で、卒業後の社会での活躍にも影響すると思われます。そのため、できるだけ同じ母集団で経年比較する必要がありますが、現状では調査回数が少なく、全体の傾向を見る段階です。

本学の入学生は、入学段階で全員がリハビリテーション職をめざしているため、職業に対する動機が入学時は相当に高いのですが、学年が進むと逆に弱まる学生が多くなる可能性があります。断面的に見ると3年生で高まる傾向を示しています。学年進行に伴う変化を追跡的に分析すると、1年生から2年生での変化では「リハビリテーションの専門職になるためには学業がいくらしんどくてもあきらめない」88%から78%に低下していましたが、2年生から3年生になる時点では76%から89%に増加していました。他にも、2年生から3年生では多くの項目が増加しており、実習科目の増加などが学生の意識形成に影響を与えている可能性が考えられます。

【2022年度全体】(回答数…140)

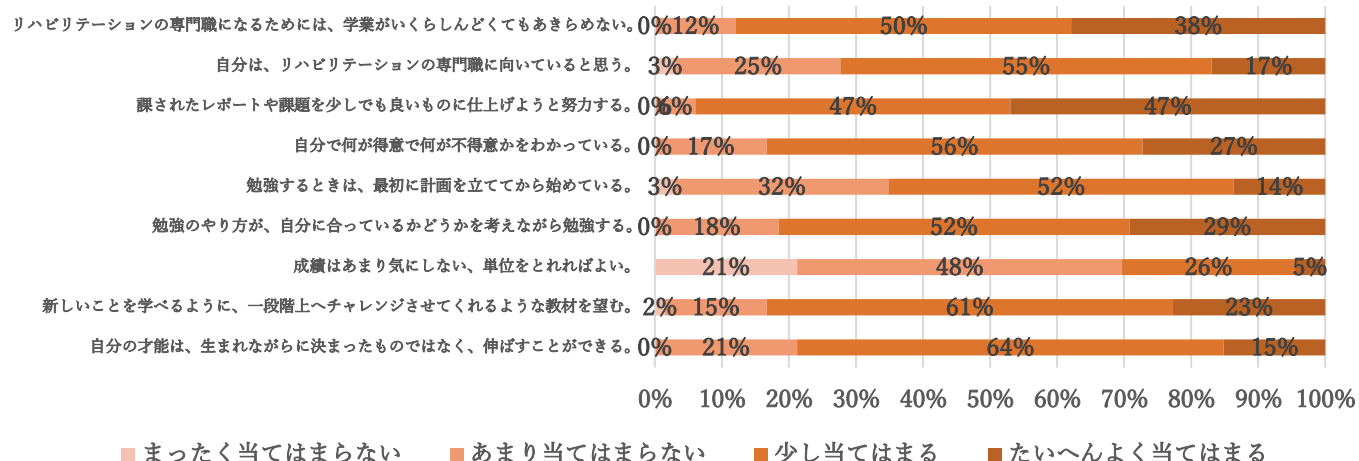


【2021年度全体】(回答数…97)



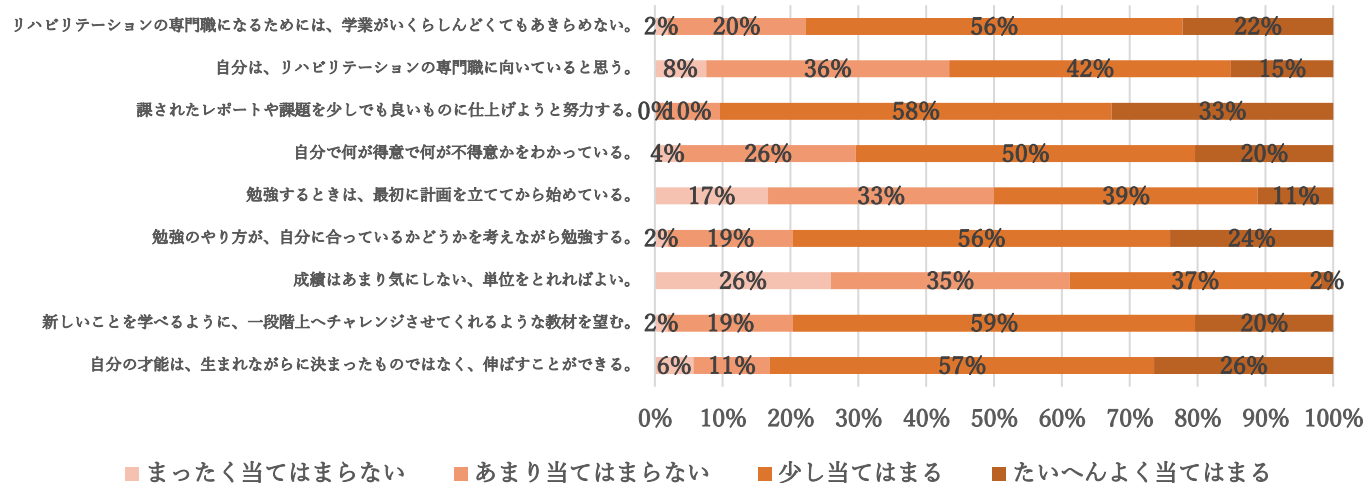
【2022 年度 1 年生】（回答者数…66）

学修取組意識



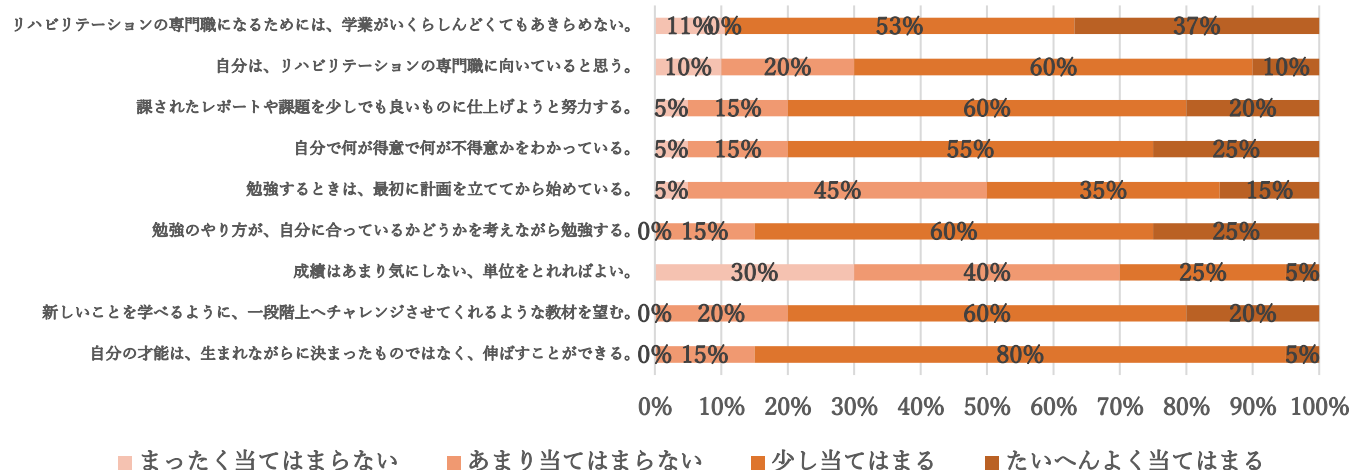
【2022 年度 2 年生】（回答者数…54）

学修取組意識



【2022 年度 3 年生】（回答者数…20）

学修取組意識

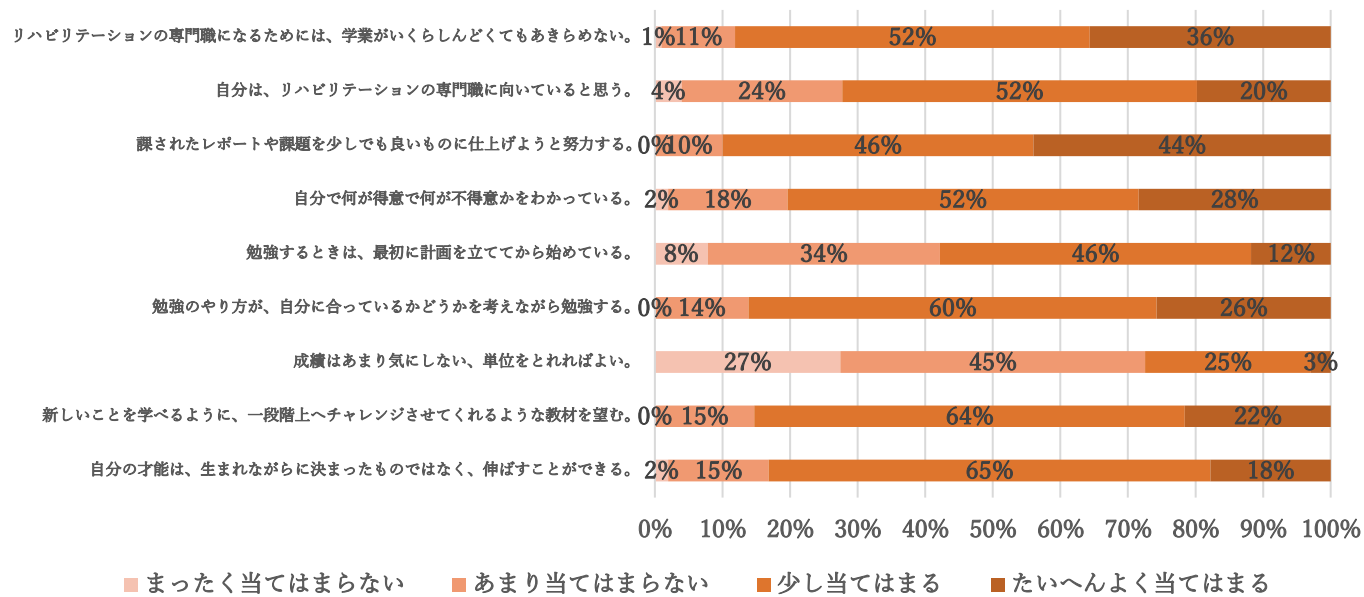


【学年進行に伴う「学修取組意識」の変化】

学修取組意識の変化	76人		54人		21人		20人	
	1年生→2年生		21年度1年生	22年度2年生	2年生→3年生		21年度2年生	22年度3年生
自分の才能は、生まれながらに決まったものではなく、伸ばすことができる。	75%	83%			86%	85%		
新しいことを学べるように、一段階上へチャレンジさせてくれるような教材を望む。	69%	80%			62%	80%		
成績はあまり気にしない、単位をとればよい。	40%	39%			38%	30%		
勉強のやり方が、自分に合っているかどうかを考えながら勉強する。	70%	80%			76%	85%		
勉強するときは、最初に計画を立ててから始めている。	55%	50%			33%	50%		
自分で何が得意で何が不得意かをわかっている。	82%	70%			67%	80%		
課されたレポートや課題を少しでも良いものに仕上げようと努力する。	95%	90%			95%	80%		
自分は、リハビリテーションの専門職に向いていると思う。	65%	57%			52%	70%		
リハビリテーションの専門職になるためには、学業がいくらしんどくてもあきらめない。	88%	78%			76%	89%		

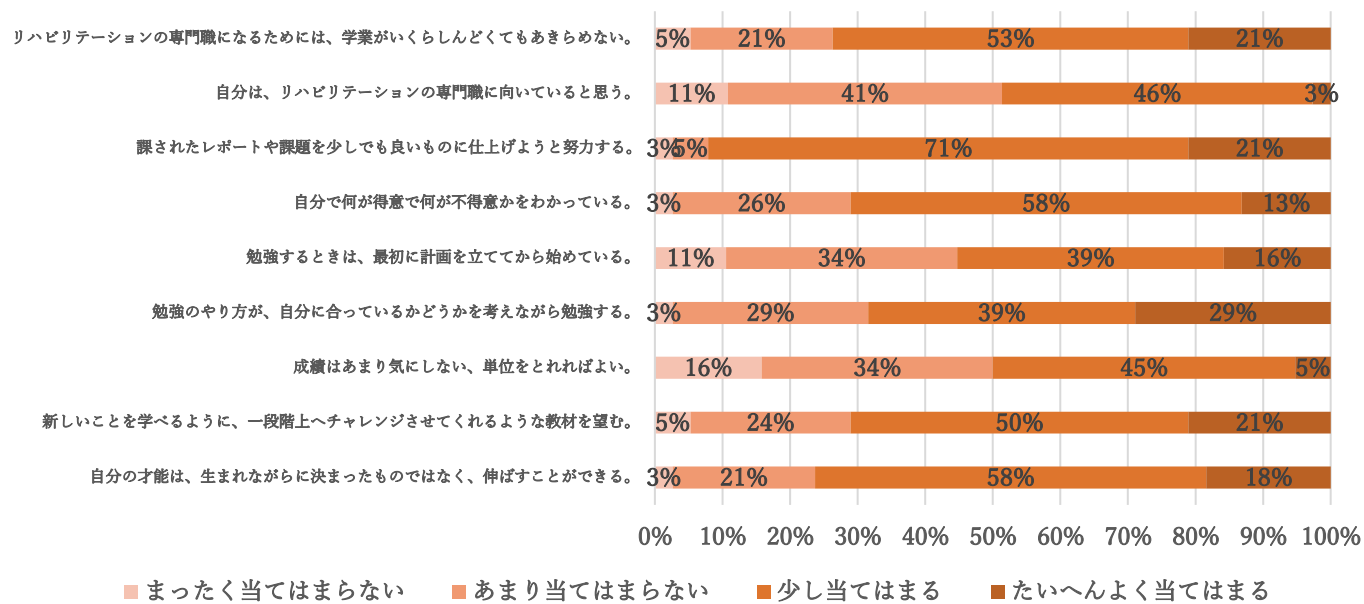
【2022 年度 PT】（回答数…102）

学修取組意識



【2022 年度 OT】（回答数…38）

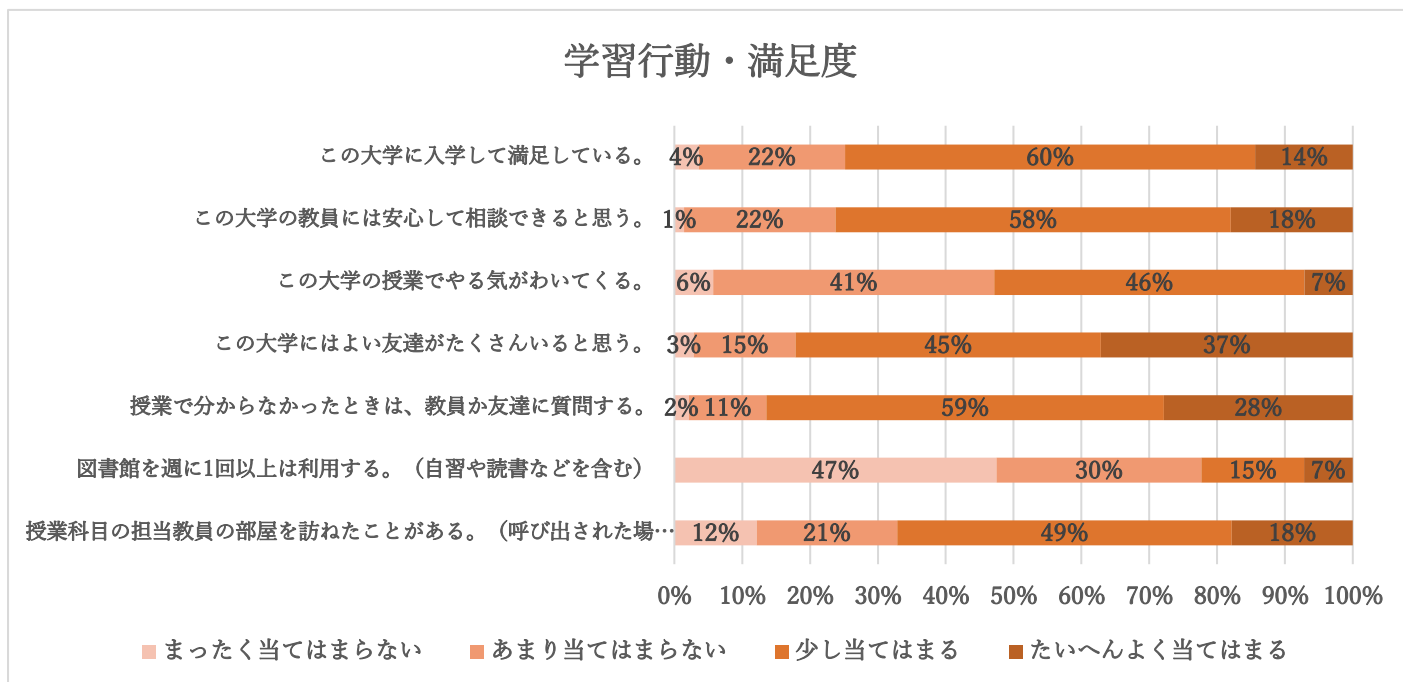
学修取組意識



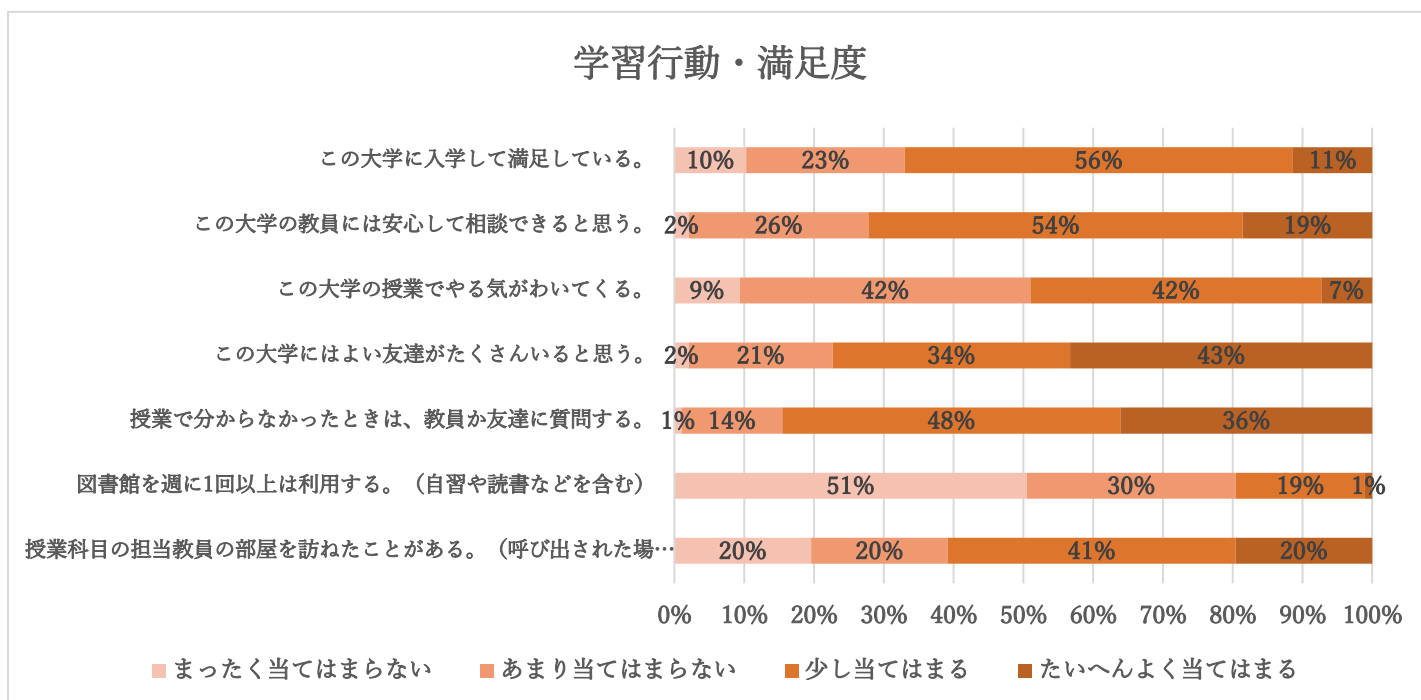
3.学習行動・満足度

ここでは、本学への入学と授業の満足度、教員への相談、図書館の利用など、日々の学習行動について訊いています。入学満足度や友人の存在、教員への相談についてはたいへん肯定的な回答となっています。ただし、「この大学の授業でやる気がわいてくる。」という質問については、断面調査だけを見ると学年が上がるにつれ否定的な回答が多くなっています。そこで、学年進行に伴う変化を追跡的に分析してみると、1年生から2年生の段階では「授業科目の担当教員の部屋を訪ねた・・・」や友人関係の項目が増加し、2年生から3年生の段階では、図書館の利用や教員への相談に関する項目や「入学満足」評価が増加していました。

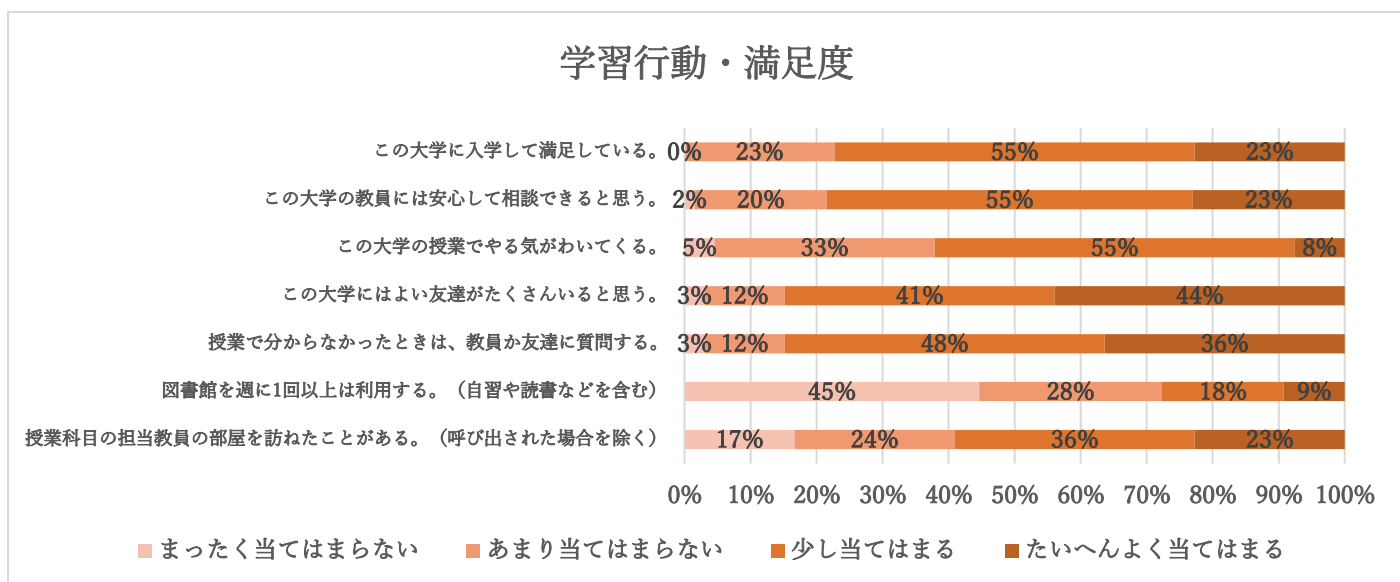
【2022 年度全体】（回答数…140）



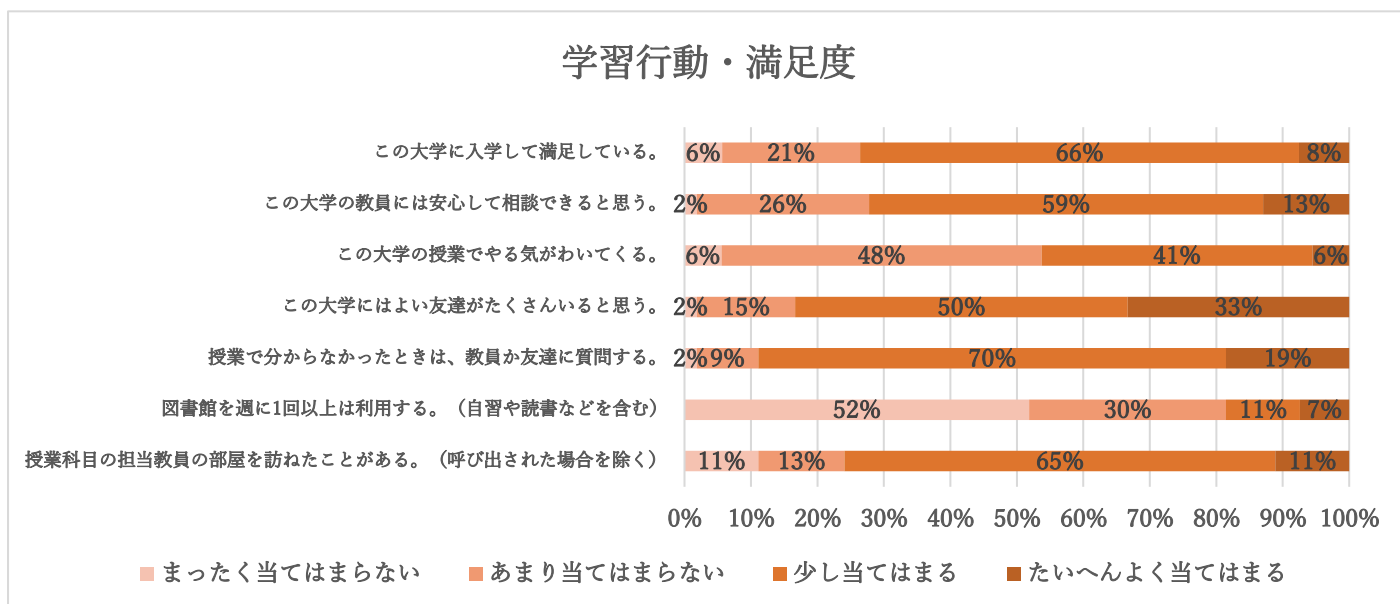
【2021 年度全体】（回答数…97）



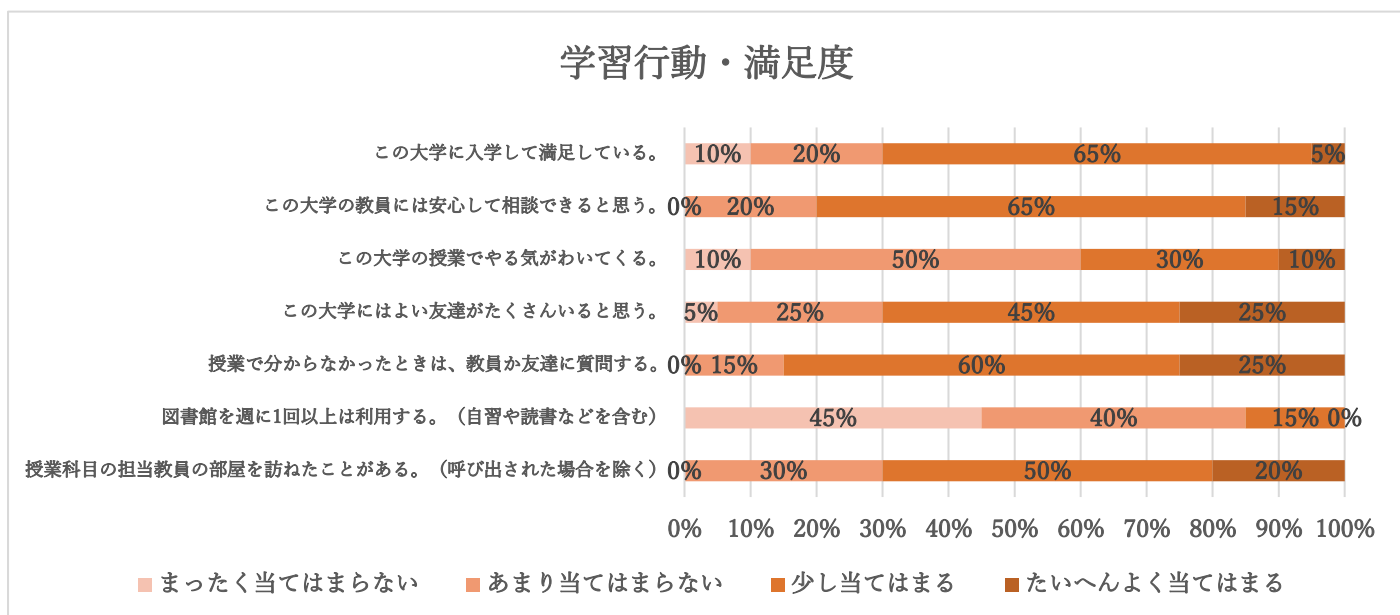
【2022 年度 1 年生】（回答者数…66）



【2022 年度 2 年生】（回答者数…54）



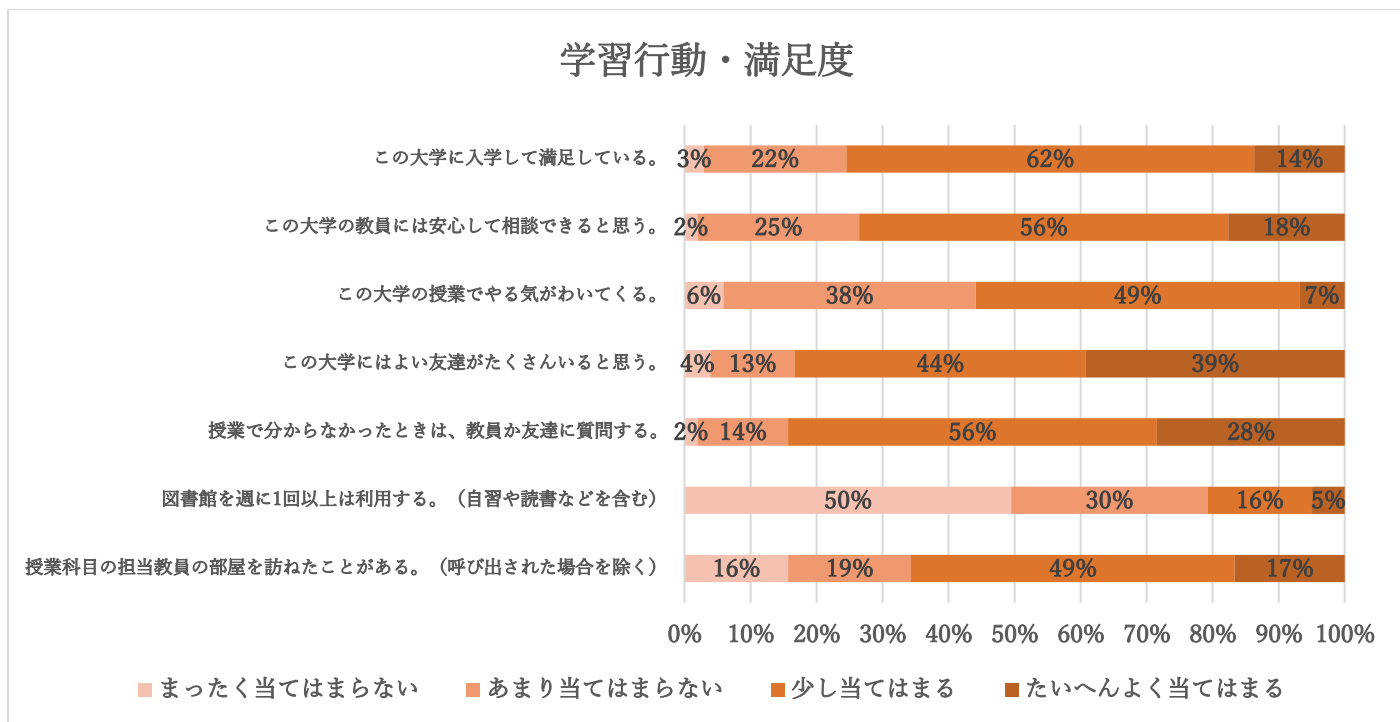
【2022 年度 3 年生】（回答者数…20）



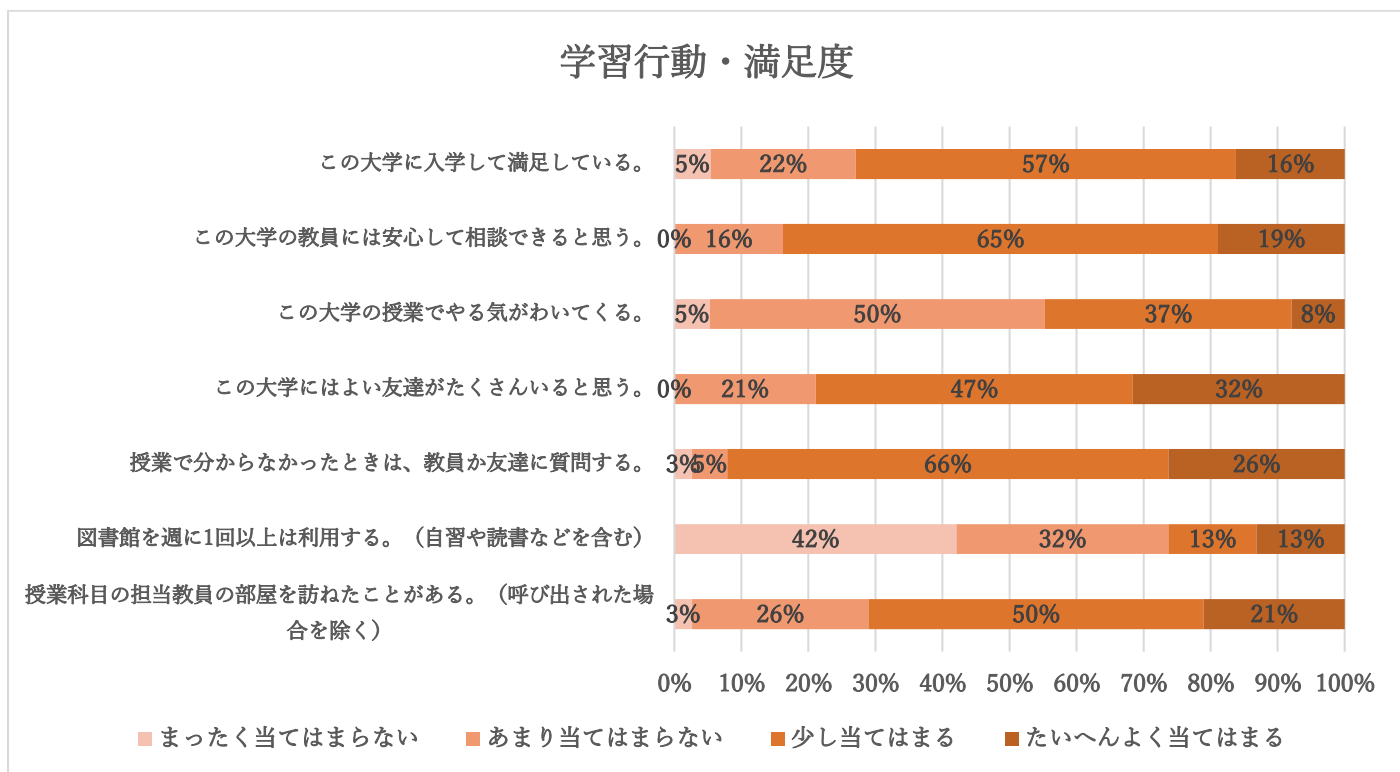
【学年進行に伴う「学修行動・満足度」の変化】

学年進行に伴う「学修行動・満足度」の変化	76人 54人		21人 20人	
	21年度1年生	22年度2年生	21年度2年生	22年度3年生
1年生→2年生				
授業科目の担当教員の部屋を訪ねたことがある。(呼び出された場合を除く)	58%	76%	71%	70%
図書館を週に1回以上は利用する。(自習や読書などを含む)	24%	19%	5%	15%
授業で分からなかったときは、教員か友達に質問する。	82%	89%	95%	85%
この大学にはよい友達がたくさんいると思う。	78%	83%	76%	70%
この大学の授業でやる気がわいてくる。	48%	46%	52%	40%
この大学の教員には安心して相談できると思う。	75%	72%	62%	80%
この大学に入学して満足している。	71%	74%	52%	70%

【2022 年度 PT】（回答数…102）



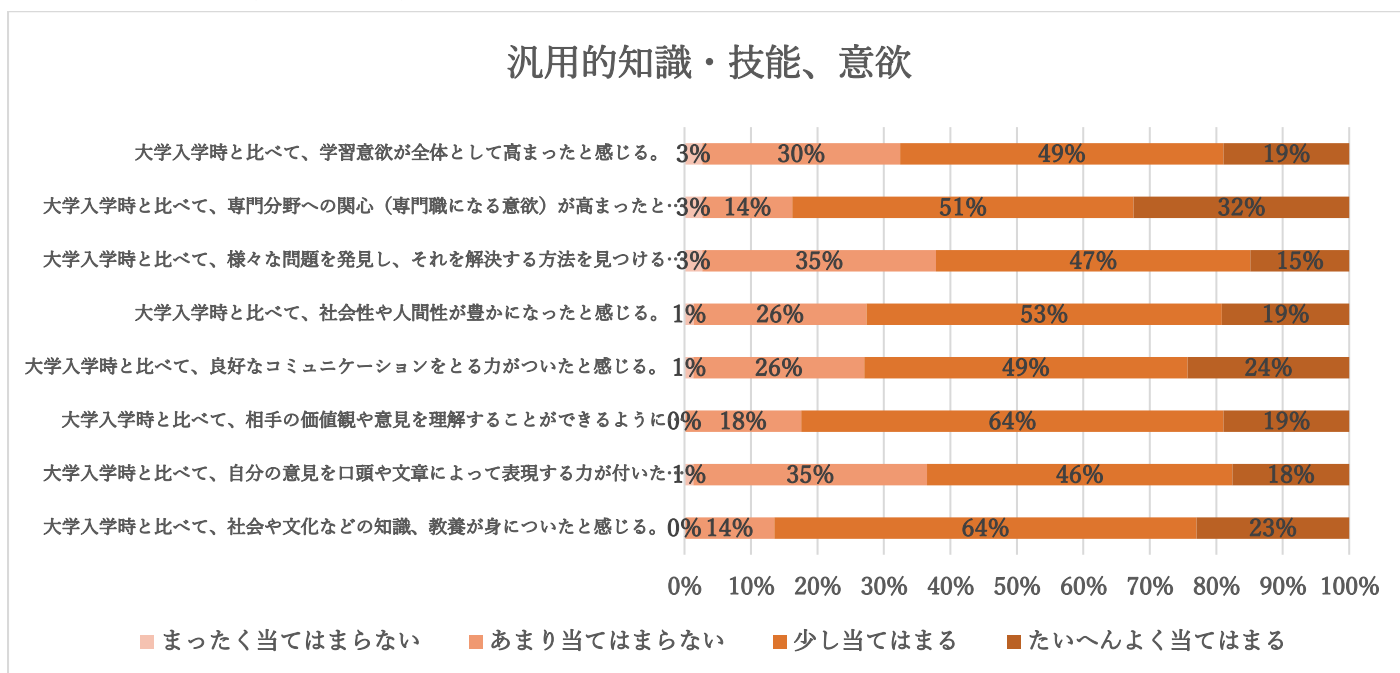
【2022 年度 OT】（回答数…38）



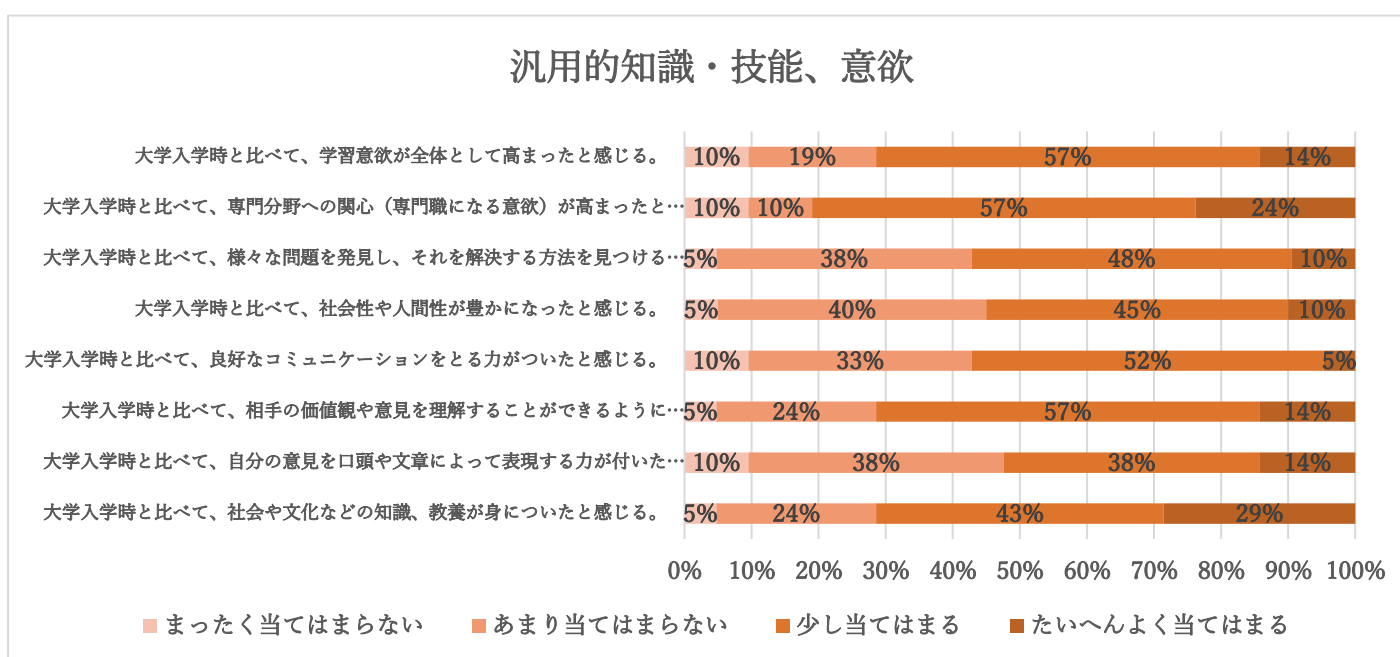
5.汎用的知識・技能、意欲

大学入学時とくらべ、知識やスキル、意欲が高くなっているかを訊いており、入学後の成長を評価することが目的です。そのため、2年生以上が回答の対象者です。最終的には、ディプロマ・ポリシーの達成度の自己評価につながるため、すべての項目で向上していることを期待したいところです。現状の結果からは、それぞれの項目で、「たいへんよく当てはまる」＝向上していることを強く感じていると答えた割合は20%前後で低調なのが気になります。断面的に学年間で比べても、3年生での明らかな向上は不明でした。そこで、学年進行に伴う変化を見ました。ここでは、「少し当てはまる」「大変よく当てはまる」を合わせた回答比率を示しました。2年生から3年生に学年が進むにしたがって、8項目中4項目で10%以上の向上が認められました。ただ、「専門職になる意欲」と「学修意欲の高まり」が低下したことについては、検討を深める必要があると考えます。

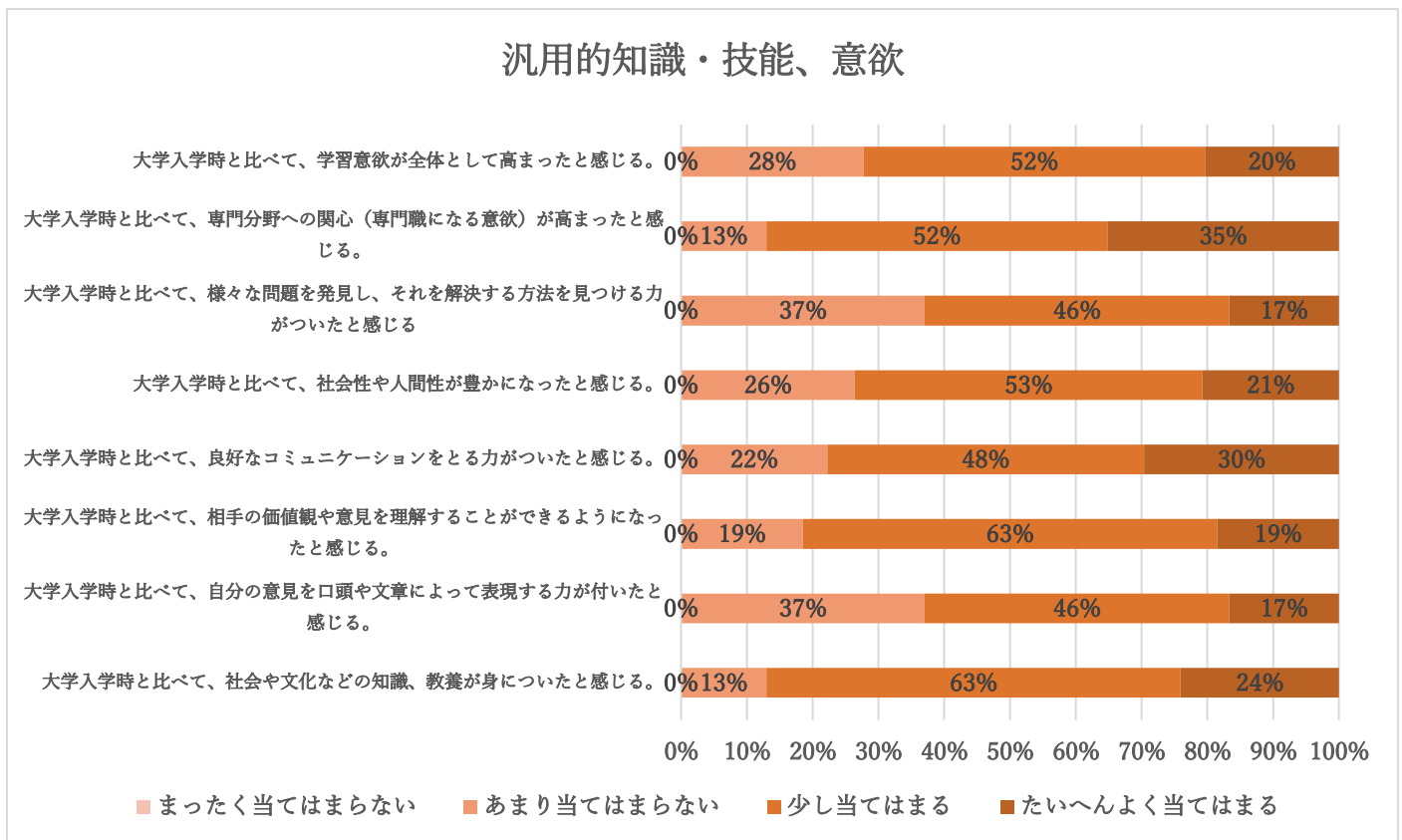
【2022 年度全体】（回答数…74）



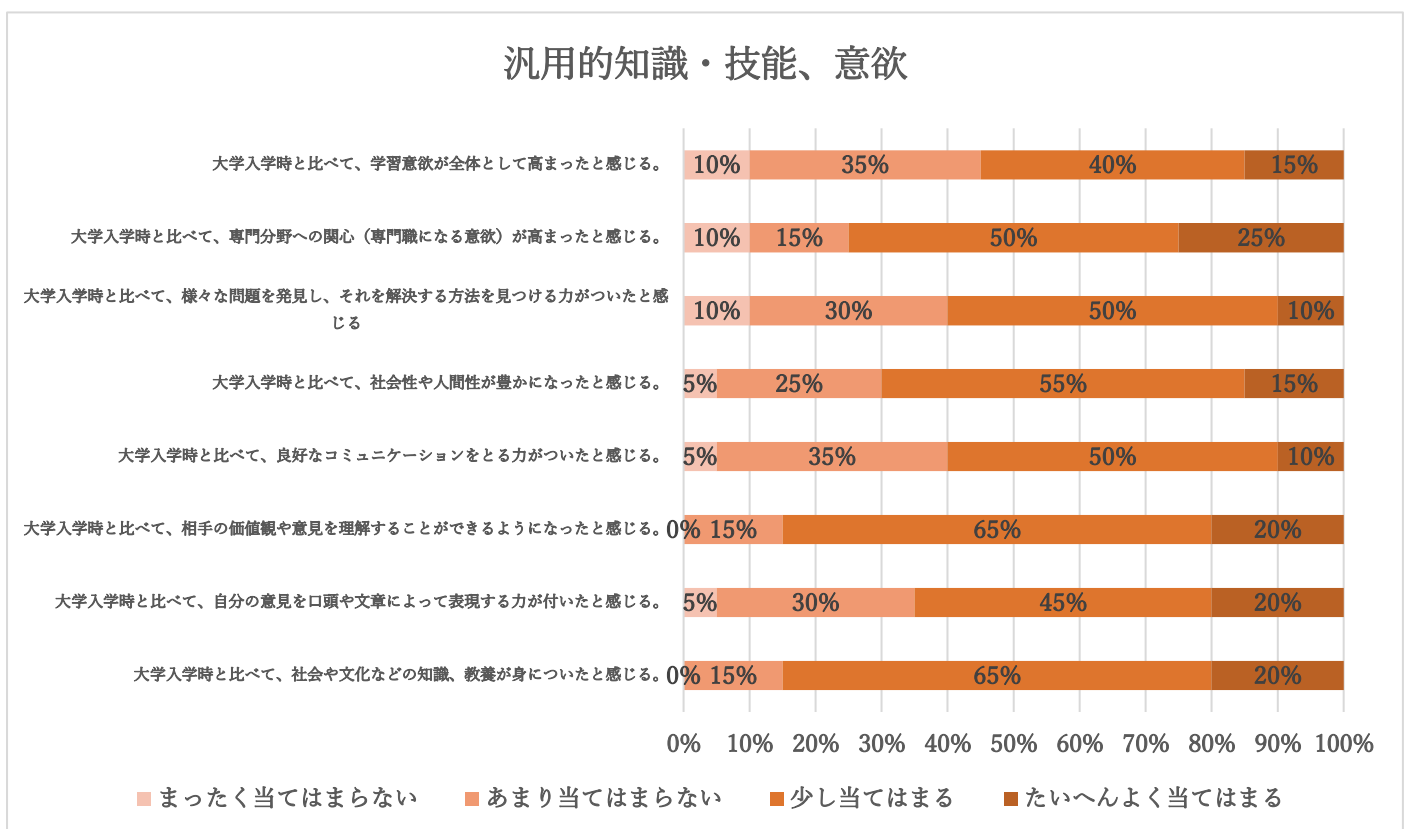
【2021 年度全体】（回答数…21）



【2022 年度 2 年生】（回答者数…54）



【2022 年度 3 年生】（回答者数…20）

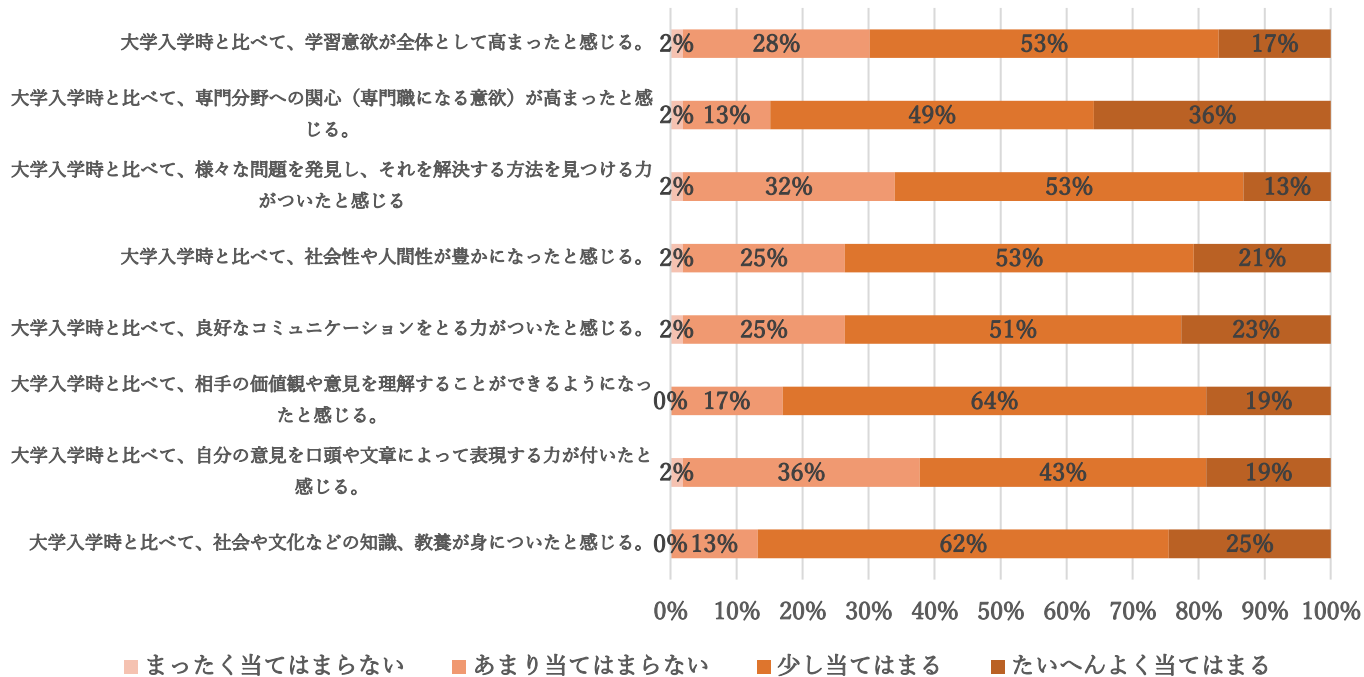


【学年進行に伴う「汎用的知識・技能・意欲」の変化】

学年進行に伴う「汎用的知識・技能・意欲」の変化	54人	21人	20人
	* 22年度2年生	21年度2年生	22年度3年生
2年生→3年生			
大学入学時と比べて、社会や文化などの知識、教養が身についたと感じる。	87%	71%	85%
大学入学時と比べて、自分の意見を口頭や文章によって表現する力が付いたと感じる。	63%	52%	65%
大学入学時と比べて、相手の価値観や意見を理解することができるようになったと感じる。	81%	71%	85%
大学入学時と比べて、良好なコミュニケーションをとる力が付いたと感じる。	78%	57%	60%
大学入学時と比べて、社会性や人間性が豊かになったと感じる。	74%	55%	70%
大学入学時と比べて、様々な問題を発見し、それを解決する方法を見つける力が付いたと感じる	63%	57%	60%
大学入学時と比べて、専門分野への関心（専門職になる意欲）が高まったと感じる。	87%	81%	75%
大学入学時と比べて、学習意欲が全体として高まったと感じる。	72%	71%	55%

【2022 年度 PT】（回答数…53）

汎用的知識・技能、意欲



【2022 年度 OT】（回答数…21）

汎用的知識・技能、意欲

